

加西を縦貫する道路の整備について

一般質問



織部 徹 議員
(21 国会)

問 加西市の南を横断する国道 372 号線のバイパス整備は重要ですが、南北に縦断する道路も必要であると考えます。加西市には、中国道・加西インターと山陽道・加古川北インターの 2 つが近くにありますが、その間がスムーズに連絡できていません。

一般的には、高速道路のインター同士が近くにある場合、インター間は整備されていることが多いと思うのですが、山陽道と中国道の連絡道は整備されていません。山陽道・加古川北インターか

ら中国道・加西インターまで多くの大型トラックが走りますが、右折レーンが十分取れていないため、交差点で渋滞も発生している状況です。

そこで、山陽道と中国道を結ぶ縦の幹線道を 4 車線で整備する必要があると思うのですが、いかがか。

答 加西市を縦断する道路については、「北はりまハイランド・ふるさと街道」として、加古川北インターから、北は氷上インターまで、総延長 55 ㌔の整備構想を持っており、ふるさと街道が通過する市町による期成同盟会が結成され、現在活動されているところです。

なかでも、加古川北インターから加西インターまでの約 10 ㌔間は、ハイランド構想の中で「交流・

連携軸」として位置づけされており、今後整備が進んでいくものと考えており、県からも、4 車線化の構想を残しつつということで回答を得ているところです。

そして、加西市の発展のためには、加西インター周辺の開発と、縦方向の路線整備が将来の都市計画として非常に重要だと考えています。

加古川・高砂・姫路から北へ物流の流れができることで、必然的に南からの交通量も増加し、結果として加西インター周辺の発展につながると期待できます。非常に重要な縦方向の線であるため、今後とも県へ要望していきたいと考えています。

■その他の質問項目

・教育問題について

健康長寿の取り組み

一般質問



土本 昌幸 議員
(公明党)

がん対策の推進

問 がん対策の推進について、がん教育の重要性を指摘します。日本は世界一のがん大国です。毎年 100 万人近くががんと診断され、37 万人もの人ががんで死亡しています。

この国民病ともいえる、がんに関する知識を多くの国民は持っていません。

わが国では、がん死亡率は年々増える一方ですが、多くの欧米先進国では減少に転じており、日本

はがん対策後進国といえます。

この問題の背景には急速な高齢化もありますが、国民ががんを知らないことが根本的な原因であると考えます。

この対策遅れという潮流を変えるには、学校で学ぶ体制が必要ではないかと考えます。教育を受けた子供が、家族にがん検診を受けるよう勧める逆世代教育も進むよう期待が持てるのではないのでしょうか。状況と今後の取り組みについてお伺いします。

答 国民の 2 人に 1 人ががんにかかり、3 人に 1 人ががんで亡くなっていると言われてます。がんは重要な健康課題であると認識しています。

学校でのがん教育については、がんやがん患者についての正しい理解と認識を深め、自他の健康と

生命の大切さに対する理解を深化させること、予防や早期発見につながる行動変容を促し、共に生きる社会づくりに寄与する資質や能力の育成を図ることが重要です。

平成 28 年度、下里小学校が県下小学校唯一のモデル校指定を受け、がんの発生や要因、検診、治療、がん患者と社会の現状等の課題内容について、授業や講演会を実施する予定です。

この実践を踏まえてがん教育のあり方を検討して、がん教育の推進体制の構築に向けて取り組んで参りたいと考えます。

■その他の質問項目

- ・安全・安心の町づくり
 - 道路の安全対策
 - 地震、豪雨対策
- ・健康長寿の取り組み
 - 健診の受診率向上